

# 米軍施設返還跡地利用指針（概要）

～「横浜から始める首都圏の環境再生」に向けて～

## （１）指針の全体構成

指針は、検討対象5施設に共通する利用方針と施設別方針の二部からなり、

- ・利用方針では、
  - ① 接收跡地を未来に活かす3つの基本姿勢
  - ② 新しい都市づくりを先導する3つの基本方向
  - ③ 共有されるべき全体テーマ
  - ④ 実現に向けた国や市などの役割を提案します。
- ・施設別方針では、全体テーマの下での個別テーマをそれぞれ掲げて、利用の方向を示します。

## （２）利用方針

- ・**基本姿勢**として、接收跡地を未来に活かすため、

- ① 厳しい横浜の**接收の歴史**を踏まえ、
- ② 返還される跡地**419ha**の**空間資源**としての価値を最大限活用し、
- ③ 21世紀を先導する**国家的プロジェクト**とすべく、開港150周年を契機とした跡地利用を推進していきます。

- ・**基本方向**として、新しい都市づくりを先導すべく、

- ① 人口減少や高齢社会対応、災害対策、地球温暖化対策などの**新たな時代要請**を先取りし、
- ② 首都圏レベルの広域課題である**首都直下地震対策**や**緑のネットワーク形成**に寄与するとともに、
- ③ 地域ニーズに応える**都市基盤整備、経済振興**などに利活用していきます。

- ・その上で、全体に共通するテーマを『**横浜から始める首都圏の環境再生**』とし、首都圏レベルでの広義の環境再生＝リバイバルを、跡地を活用して、横浜から推進していきます。また、その実現に向けては、**国の力の導入**や、横浜市を中心にした**公と民の協働**を呼びかけていきます。

## （３）施設別方針

- ・全体テーマ『**横浜から始める首都圏の環境再生**』の下で、各施設ごとの特性を踏まえて以下の個別テーマを打ち出します。

- ① 上瀬谷通信施設：「**農・緑・防災の大規模な野外活動空間**」
- ② 深谷通信所：「**自然・スポーツ・文化の円形緑陰空間**」
- ③ 富岡倉庫地区：「**海と丘をむすぶ産業創造空間**」
- ④ 根岸住宅地区：「**ヨコハマの歴史・文化を伝える庭園散策空間**」
- ⑤ 旧小柴貯油施設：「**森と海に抱かれた自然体験空間**」